

特別企画：2019 年度 北海道内スーパーストア売上高ランキング

コープさっぽろが 13 年連続首位

～上位 50 社の売上高合計は 1 兆 1917 億 5100 万円、前年度比微増～

はじめに

道内のスーパーストア業界は、大手グループによる系列化や寡占化が進んでいる。大手スーパーストアは経営統合などによってスケールメリットを追求。変化する消費者のニーズに対応した商品構成の強化や新規出店・リニューアルなどを通じて営業基盤の拡充に取り組んでいる。一方、中小規模のスーパー経営者を取り巻く環境は厳しさを増している。個人消費が伸び悩み、顧客獲得競争が激しさを増すなか、中小規模業者は地域に密着した独自の販促戦略を展開し、生き残りを図っている。

帝国データバンク札幌支店は、企業概要ファイル「COSMOS2」（登録社数 147 万社）を対象に、2019 年度（2019 年 4 月期～2020 年 3 月期）に決算を迎えた道内企業（約 7 万社）から、スーパーストア経営者を抽出、売上高ランキング（不動産賃貸収入等を含む）を作成した。なお、売上高は推定値を含む。

～調査対象～

1. 原則として生鮮 3 品を扱い、セルフサービス方式を採用する法人
2. 北海道内に本社を置きスーパーストアを展開する法人
3. 北海道内に本社を置き店舗展開する生活協同組合（大学生協を除く）
4. 売上高は不動産賃貸収入等を含み、店舗数は上記の対象店舗とする

調査結果（要旨）

1. 2019 年度のランキング第 1 位は、売上高 2917 億 300 万円の（生協）コープさっぽろ。第 2 位はイオン北海道（株）。第 3 位はマックスバリュ北海道（株）で、上位 10 位までの顔ぶれと順位は前年度と変わりがなかった。
2. グループ別売上高の順位は前年度と変動がなかった。第 1 位は、店舗数 163、売上高合計 3380 億 1700 万円のイオングループ。第 2 位は（生協）コープさっぽろ及び業務提携する（有）魚長、（株）中央スーパーのグループ。第 3 位はアークスグループ。
3. 上位 50 社の売上高合計は 1 兆 1917 億 5100 万円。上位 10 社の売上高合計は 1 兆 354 億 6800 万円。いずれも前年度比微増となった。上位 50 社の増収企業（横ばい含む）は 24 社、減収企業は 26 社。

1. 売上高ランキング ～ 第1位はコープさっぽろ、第2位はイオン北海道

ランキング第1位は売上高2917億300万円(前期比1.0%減)を計上した(生協)コープさっぽろで、ランキング対象とした2007年度から13年連続で首位となった。第2位は売上高2045億1000万円(同0.1%増)のイオン北海道(株)。同社は、2015年9月に(株)ダイエーの北海道地区の総合スーパー9店舗を承継している。3位のマックスバリュ北海道(株)は同3.3%増の売上高1335億700万円を計上した。2015年9月に(株)ダイエーの北海道地区の食品スーパー7店舗、10月に(株)いちまるのスーパーストア14店舗を承継している。4位はアークスグループの中核、(株)ラルズで売上高1292億2000万円(同0.5%増)。(株)ホクレン商事は同1.6%増の売上高654億4300万円で5位となった。

1位から10位までの顔ぶれと順位には前年度と変動がなかった。

2019年度 北海道内スーパーストア売上高ランキング

(金額単位:百万円)

順位	前年 順位	法人名	所在地	店舗名	店舗数 (決算時)	決算期 (月)	2019年度 売上高	2018年度 売上高	伸び率 (%)
1	1	(生協)コープさっぽろ	札幌市	コープさっぽろ	107	3	291,703	294,559	▲ 1.0
2	2	イオン北海道(株)	札幌市	イオンほか	79	2	204,510	204,233	0.1
3	3	マックスバリュ北海道(株)	札幌市	マックスバリュほか	84	2	133,507	129,281	3.3
4	4	(株)ラルズ	札幌市	スーパーアークスほか	73	2	129,220	128,600	0.5
5	5	(株)ホクレン商事	札幌市	ホクレンショップ ほか	62	3	65,443	64,422	1.6
6	6	(株)東光ストア	札幌市	東光ストア ほか	28	2	44,069	44,930	▲ 1.9
7	7	(株)道北アークス	旭川市	スーパーチェーンふじ ほか	43	2	42,740	43,322	▲ 1.3
8	8	(株)福原	帯広市	フクハラ ほか	42	2	42,182	42,717	▲ 1.3
9	9	北雄ラッキー(株)	札幌市	ラッキーほか	34	2	41,066	42,290	▲ 2.9
10	10	(株)ダイイチ	帯広市	ダイイチ	23	9	41,028	40,878	0.4
11	11	(株)道南ラルズ	北斗市	ラルズマート ほか	18	2	24,359	24,317	0.2
12	12	(株)道東アークス	北見市	ラルズマート ほか	14	2	19,929	20,155	▲ 1.1
13	13	(株)北海道ジェイ・アール・フレッシュネス・リテール	札幌市	JR生鮮市場	9	3	17,750	17,620	0.7
14	14	(株)豊月	苫小牧市	フードD	13	1	15,483	15,884	▲ 2.5
15	16	(株)津司	札幌市	卸売スーパー	8	4	11,000	11,000	0.0
16	15	(有)魚長	函館市	生鮮夢市場 ほか	19	2	10,618	11,243	▲ 5.6
17	17	(株)東武	中標津町	東武サウスヒルズ ほか	2	1	5,500	5,700	▲ 3.5
18	18	(株)ダイゼン	鷹栖町	DZマート	17	9	5,455	5,166	5.6
19	19	(株)モリワキ	札幌市	北海市場	6	12	4,800	4,342	10.5
20	20	(株)ハピオ	音更町	ハピオ	1	3	3,742	3,790	▲ 1.3

※1 イオン北海道(株)は2015年9月より(株)ダイエーの北海道地区の総合スーパー9店舗を承継

※2 マックスバリュ北海道(株)は2015年9月より(株)ダイエーの北海道地区の食品スーパー7店舗を承継
また同年10月1日付で(株)いちまるよりスーパーストア14店舗を承継

※3 (株)ダイイチは2016年10月1日付で(株)オーケー(音更町)を吸収合併

※4 (株)道東ラルズは2016年3月に(株)篠原商店を合併、(株)道東ラルズは(株)道東アークスに商号を変更。

2. グループ別売上高 ～イオングループが3380 億 1700 万円で5年連続してトップに

グループ別売上高では、イオン北海道（株）とマックスバリュ北海道（株）のイオングループの2社が、店舗数163、売上高合計は前期比1.4%増の3380 億 1700 万円を計上し、5年連続してトップとなった。なお、2019 年度決算後の2020 年3月1日付でイオン北海道（株）はマックスバリュ北海道（株）を吸収合併し、新生・イオン北海道（株）が誕生した。

第2位は（生協）コープさっぽろ及び業務提携先の（有）魚長（函館市）、（株）中央スーパー（留萌市）のグループ。2019 年9月に（生協）コープさっぽろと（株）中央スーパーは業務提携契約書を締結し、同グループの店舗数は130、売上高合計は3042 億 6100 万円となった。

アークスグループ（道内本社6社）は店舗数218、売上高合計は前期比0.5%減の3024 億 9900 万円で第3位となった。

2019年度(2019年4月期～2020年3月期)大手3強の売上高

●イオングループ売上高

（単位：百万円）

企業名	店舗数	2018年度	2019年度	伸び率 (%)
イオン北海道(株)※1※3	79	204,233	204,510	0.1
マックスバリュ北海道(株)※2	84	129,281	133,507	3.3
合 計	163	333,514	338,017	1.4

※1 イオン北海道(株)は2015年9月より(株)ダイエーの北海道地区の総合スーパー9店舗を承継

※2 マックスバリュ北海道(株)は2015年9月より(株)ダイエーの食品スーパー7店舗を承継。

また同年10月より(株)いちまるのスーパーストア14店舗を承継

※3 2020年3月1日付でイオン北海道(株)はマックスバリュ北海道(株)を吸収合併

●（生協）コープさっぽろ及び業務提携先売上高

（単位：百万円）

企業名	店舗数	2018年度	2019年度	伸び率 (%)
（生協）コープさっぽろ	107	294,559	291,703	▲ 1.0
（有）魚長	19	11,243	10,618	▲ 5.6
（株）中央スーパー※1	4	—	1,940	—
合 計	130	305,802	304,261	▲ 0.5

※1:（株）中央スーパーは2019年9月に（生協）コープさっぽろと業務提携契約書を締結

●アークスグループ売上高

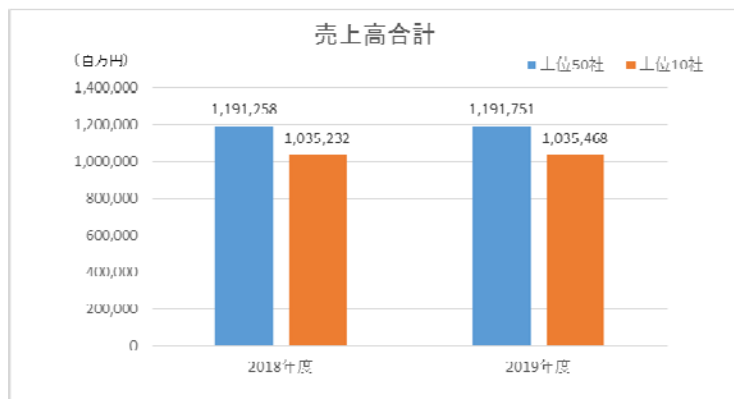
（単位：百万円）

企業名	店舗数	2018年度	2019年度	伸び率 (%)
（株）ラルズ	73	128,600	129,220	0.5
（株）東光ストア	28	44,930	44,069	▲ 1.9
（株）道北アークス	43	43,322	42,740	▲ 1.3
（株）福原	42	42,717	42,182	▲ 1.3
（株）道南ラルズ	18	24,317	24,359	0.2
（株）道東アークス※1	14	20,155	19,929	▲ 1.1
合 計	218	304,041	302,499	▲ 0.5

※1:（株）道東ラルズは2016年3月に（株）篠原商店を合併、（株）道東ラルズは（株）道東アークスに商号を変更

3. 上位 50 社売上高合計 ～1 兆 1917 億 5100 万円で前年度比微増

売上高ランキング上位 50 社の売上高合計は、1 兆 1917 億 5100 万円となり、前年度（1 兆 1912 億 5800 万円）から微増で推移した。上位 10 社の売上高合計は、50 社合計の 86.9%を占める 1 兆 354 億 6800 万円で、上位 50 社の売上高合計と同様に、前年度（1 兆 352 億 3200 万円）から微増で推移した。



上位 50 社に占める上位 10 社の売上高合計の構成比も前期から変動はなく、寡占化がうかがわれる。

売上高が前年度比増収（横ばい含む）の企業は上位 50 社中 24 社、減収企業は 26 社となり、減収企業の数が増えた。

4. トップ 10 企業の動向

スーパーストア売上高ランキング推移(2010年度～2019年度)

順位	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
1	(生協)コープさっぽろ	(生協)コープさっぽろ	(生協)コープさっぽろ	(生協)コープさっぽろ	(生協)コープさっぽろ	(生協)コープさっぽろ	(生協)コープさっぽろ	(生協)コープさっぽろ	(生協)コープさっぽろ	(生協)コープさっぽろ
2	イオン北海道(株)	イオン北海道(株)	イオン北海道(株)	イオン北海道(株)	イオン北海道(株)	イオン北海道(株)	イオン北海道(株)	イオン北海道(株)	イオン北海道(株)	イオン北海道(株)
3	(株)ラルズ	(株)ラルズ	(株)ラルズ	(株)ラルズ	(株)ラルズ	(株)ラルズ	(株)ラルズ	(株)ラルズ	マックスバリュ北海道(株)	マックスバリュ北海道(株)
4	マックスバリュ北海道(株)	マックスバリュ北海道(株)	マックスバリュ北海道(株)	マックスバリュ北海道(株)	マックスバリュ北海道(株)	マックスバリュ北海道(株)	マックスバリュ北海道(株)	マックスバリュ北海道(株)	(株)ラルズ	(株)ラルズ
5	(株)ホクレン商事	(株)ホクレン商事	(株)ホクレン商事	(株)ホクレン商事	(株)ホクレン商事	(株)ホクレン商事	(株)ホクレン商事	(株)ホクレン商事	(株)ホクレン商事	(株)ホクレン商事
6	(株)福原	(株)東光ストア	北海道北アークス	北海道北アークス	北海道北アークス	(株)東光ストア	(株)東光ストア	(株)東光ストア	(株)東光ストア	(株)東光ストア
7	(株)東光ストア	(株)福原	(株)東光ストア	(株)東光ストア	(株)東光ストア	北海道北アークス	北海道北アークス	北海道北アークス	北海道北アークス	北海道北アークス
8	北雄ラッキー(株)	北雄ラッキー(株)	(株)福原	(株)福原	(株)福原	北雄ラッキー(株)	北雄ラッキー(株)	(株)福原	(株)福原	(株)福原
9	(株)ふじ	(株)ふじ	北雄ラッキー(株)	北雄ラッキー(株)	北雄ラッキー(株)	(株)福原	(株)福原	北雄ラッキー(株)	北雄ラッキー(株)	北雄ラッキー(株)
10	(株)ダイイチ	(株)ダイイチ	(株)ダイイチ	(株)ダイイチ	(株)ダイイチ	(株)ダイイチ	(株)ダイイチ	(株)ダイイチ	(株)ダイイチ	(株)ダイイチ

[注1] (生協)コープさっぽろは2007年度からランキング対象

[注2] (株)札幌東急ストアは2009年11月に(株)東光ストアへ商号変更

[注3] (株)ふじは2012年7月に(株)北海道北アークスと合併し、(株)北海道北アークスへ商号変更

[注4] イオン北海道(株)は2015年9月より(株)ダイエーの北海道地区の総合スーパー9店舗を承継

[注5] マックスバリュ北海道(株)は2015年9月より(株)ダイエーの北海道地区の食品スーパー7店舗を承継

また同年10月1日付で(株)いちまるよりスーパーストア14店舗を承継

[注6] (株)ダイイチは2016年10月1日付で(株)オーケー(音更町)を吸収合併

(生協) コープさっぽろは、配送拠点である「石山センター」「西岡センター」「本別デポ」を新設し、宅配事業部門の供給力を強化した。2020 年 2 月以降は新型コロナウイルスの感染拡大により家庭内食の需要が高まり、契約世帯数も増加。顧客単価面の上昇も見られたことなどから、同部門は前期比で増収となった。一方、店舗部門は下半期に入り、消費税増税後の反動に加え、買い控えも一部見られ、前年同月を下回る状況が続いた。同年 3 月に入り、外出自粛要請などに伴い販売は急増したが、それ以前の落ち込み分をカバーするまでには至らず、店舗部門の売上高は減収に終わった。総売上高は前期比 1.0%減の 2917 億 300 万円となった。

イオン北海道(株)は、地方店舗を中心にフードコートの新設・拡大などのリニューアルをおこない、来店客数を伸ばした。顧客の健康志向のニーズに対応する「ヘルス&ウェルネス」の商品構成が支持を集め、全国のご当地食材を選びすぐった「国内フェア」も開催回数を増やし、増収に繋がった。小型店舗の「まいばすけっと」は 2 店舗増の 38 店舗となり、インターネット事業も店舗受取サービスなどの差別化を展開。総売上高は前期比 0.1%増の 2045 億 1000 万円となった。

マックスバリュ北海道(株)は函館市に 2 店舗を新たに新店。鮮度にこだわった地元産商品の品揃えを拡充し、訪日外国人観光客向けに免税販売や外貨両替機を設置した。利用客の節約・低価格志向に応えるための販売企画「安い値！」も展開。地元で朝とれた野菜を販売する「今朝採れ野菜」の取り組みが支持を集めたほか、デジタル販促企画の割引クーポン配布を全店舗に拡大した。消費税増税の駆け込み需要も後押しし、総売上高は前期比 3.3%増の 1335 億 700 万円を計上した。

(株) ラルズは、「スーパーアークス山鼻店」「スーパーアークス当別店」「ビッグハウス新川店」などを改装し、集客増を図った。外出自粛などによって食料品の売り上げは好調に推移。前期と同様にカット野菜、惣菜などのデリカ商品の人気は根強く、総会員数 301 万人を誇る「アークス RARA カード」のポイント還元もリピート客の確保に繋がった。生鮮 3 品（青果、鮮魚、精肉）の動きも堅調で、総売上高は前期比 0.5%増の 1292 億 2000 万円を計上した。

(株) ホクレン商事は、「ホクレンショップひがしかわ店」などの 3 店舗をリニューアル

オープンし、新たな顧客の獲得に取り組んだ。従来通り鮮度の高い野菜や鮮魚などの商品を提供し、固定客も確保。外出自粛要請などで生鮮品、弁当、惣菜、即席麺などの需要が大幅に伸び、総売上高は前期比 1.6%増の 654 億 4300 万円を計上した。

(株) 東光ストアは、高品質で鮮度の高い生鮮品をはじめ、幅広い価格帯の商品構成を継続し、消費者の選択肢を広げた。プライベートブランド商品の売れ行きも堅調で、2 月以降は「巣ごもり需要」の高まりから 1 人当たりの購入単価、購入点数は増加した。しかし、節約志向の高まりなどから来店客数が減少。総売上高は前期比 1.9%減の 440 億 6900 万円となった。

(株) 道北アークスは、スケールメリットを生かした価格設定が支持され、道北地区の顧客からの支持を得ている。しかし、少子高齢化や人口減少などの影響から、来店客数の伸び悩みを余儀なくされ、総売上高は前期比 1.3%減の 427 億 4000 万円となった。

(株) 福原は、アークスグループとして連動した商品棚のレイアウト変更や、利用しやすい導線設定などをおこなった。また各店舗の特色を打ち出した品揃えも進めたが、利用者の低価格志向や同業者間との競合により客単価は伸び悩み、総売上高は前期比 1.3%減の 421 億 8200 万円となった。

北雄ラッキー (株) は、期中に「ラッキー西岡店」の改装を実施。商品構成で同業他店との差別化を進め、新規顧客の獲得や顧客満足度の向上を図った。「料理する人を応援する」売り場作り、惣菜、ベーカリー部門の品揃え強化には一定の成果は見受けられたものの、青果や精肉部門における販売単価面の下落、天候不順による衣料品の季節セールの不振などから、総売上高は前期比 2.9%減の 410 億 6600 万円となった。

(株) ダイイチは、生鮮食料品の商品構成強化や店舗のリニューアルを進め、青果、デイリー、日用雑貨の実績が前期を上回った。札幌ブロックでは競合激化で若干前期実績を下回ったが、帯広、旭川の両ブロックが健闘し、総売上高は前期比 0.4%増の 410 億 2800 万円を計上した。

【内容に関する問い合わせ先】

株式会社帝国データバンク 札幌支店 担当:松田、香川、柳澤、篠塚
TEL 011-272-3933 FAX 011-272-3934

当レポートの著作権は株式会社帝国データバンクに帰属します。

当レポートはプレスリリース用資料として作成しております。報道目的以外の利用につきましては、著作権法の範囲内でご利用いただき、私的利用を超えた複製および転載を固く禁じます。